

手話を使ってみよう！

おはよう



こんにちは



こんばんは



ありがとう



ごめんね



何？（どうしたの）



川越



手話



人差し指を交互に回す

© 2019 ponyoko

発行/作成：川越市聴覚障害者協会 2025年
イラストの無断転載を禁じます

ブルーライトアップ



場 所： ウェスタ川越・U-PLACE・ユニクス川越

実施期間： 2025年9月20日(土)～9月27日(土)

点灯時間： 毎日18時～23時

場 所： リそなコエドテラス

実施期間： 2025年9月23日(祝)～9月28日(日)

点灯時間： 毎日16：30～23：30

※9月23日は18時からライトアップ

場 所： 飯能信用金庫

(川越支店/霞ヶ関支店/笠幡支店/川越石原支店)

実施期間： 2025年9月16日(火)～9月30日(火)

点灯時間： 毎日17時～22時

場 所： 埼玉縣信用金庫 川越支店

実施期間： 2025年9月22日(月)～9月29日(月)

点灯時間： 毎日17：30～8：30

手話言語の国際デー

手話の日



毎年9月23日は「手話言語の国際デー」
・「手話の日」です

2017(平成29)年12月19日、国連総会により9月23日が「手話言語の国際デー」と定められました。

この日は、手話言語が音声言語と対等な言語であることを認め、ろう者の人権を守ることを目的としています。

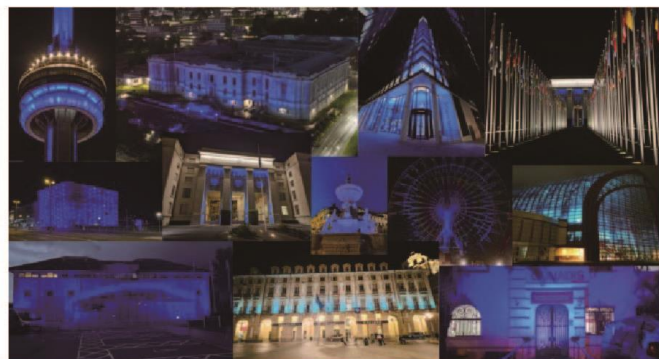
日付は、1951(昭和26)年9月23日に世界ろう連盟(WFD)が設立された日に由来します。

「国際ろう者週間」は、世界ろう連盟の主導により、1958(昭和33)年9月にイタリアのローマで始まりました。これは、第1回世界ろう者会議が開催された月を記念して設けられたもので、毎年9月の最終週(月曜日から日曜日まで)に実施されています。

日本においても、2025年(令和7年)6月18日、「手話に関する施策の推進に関する法律(手話施策推進法)」が成立し、同法に基づき、9月23日が「手話の日」として定められました。

世界的な取り組み

この期間中、「世界平和」の象徴である青色が世界中の建物やランドマークを照らします
それは、手話言語とろう者の尊厳を讃える光です



一緒に考えよう

手話言語は、単なる「音のない言語」ではありません

心と心をつなぎ、大切な言語です
あなたも、今日をきっかけに「手話言語」について考えてみませんか？



2025年テーマ

**No Human Rights Without
Sign Language Rights**

(手話言語は人権だ!)

人権とは…

人が生まれながらにして持っている、幸せに生きるための権利のことです。誰でも、どんな人でも、差別されることなく、自分らしく生きるために必要な権利です。例えば、友達と遊んだり、自分の意見を言ったり、勉強したり、ご飯を食べたり、これらの当たり前の生活は、人権が守られているからこそできることです。

手話言語とは

手話言語は、ろう者の間で自然に生まれ、長い時間をかけて使われてきた独立した言語です。

手の形、位置、動きに加えて、眉や目の動き、口の形、頬のふくらみといった顔の動作や上半身の動きも組み合わせて、視覚的に意味を伝えます。

また、日本語のような音声言語とは異なる独自の文法体系を持ち、単なる「身振り」や「日本語の代替手段」ではありません。

手話言語は、主にろう者の日常生活や文化、コミュニティの形成において、重要な役割を担っています。

手話言語の歴史

「手話言語はいのち、生きる力」

手話が言語として認められるまでの間、ろう者はろう学校などで手話を使うことを禁じられていた時代がありました。日本だけではなく、世界各国でも同じでした。

その結果、多くのろう者が手話言語を自由に使うことを制限され、尊厳を深く傷つけられてきた歴史があります。

それでも、ろう者は自分たちの言葉である手話言語を守り、育み、継承してきました。手話言語はろう者にとっての第一言語であり「いのち」であり「生きる力」そのものです。



多様性を認識し、さらなる共生社会へ

世界には多様な言語が存在し、手話言語もその一つとして重要な役割を担っています。手話言語や音声言語、それぞれの価値を認め合うことは、言語にとどまらずあらゆる多様性を尊重する精神につながります。

こうした意識が社会全体に広がっていくことで、誰もが自分らしく活躍できる共生社会の実現へとつながっていくことが期待されます。